

高校生公開討論会

～グローバル経済における「経済連携協定（EPA）」の意義について考える～

1月20日（土）、関西学院大学にて、大阪府立北野高等学校・兵庫県立長田高等学校・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部の4校による公開討論会が開催されました。本校からは生徒12名が参加しました。

午前中は、長崎 勇太 氏（ジェトロ（日本貿易振興機構）海外調査部国際経済課）による「世界と日本の FTA」と題した基調講演、そして、甘利 明 氏（衆議院議員）による「TPPが果たす国際戦略」と題した特別講演を聴きました。

昼休憩の後の午後は、高校生公開討論会～グローバル経済における「経済連携協定（EPA）」の意義について考える～が行われ、①各校に割り当てられている「経済連携協定（EPA）（本校は TPP）」の概要、②各「経済連携協定（EPA）」のメリット・デメリット、③グローバル経済における「経済連携協定（EPA）」の意義は？ 以上の3つのセクションで順に討論が進められました。セクションごとの討論では、各校のパネラーによる発表に対して、フロアから様々な質問があり、1つ1つの質問に各校のパネラーが丁寧に答えていました。

生徒たちは秋から、「各個人の調査→その調査結果を共有→新たな課題の発見」というサイクルを繰り返し、教員から少しの助言はあったものの、自力で知識を積み上げてきました。12月後半より、パネラーによるプレゼンとそれに対しての質問や意見を「熱く」そして「冷静に」議論を重ね、当日パネラーの3人は素晴らしい発表で、フロアのメンバーは立派な質問や意見を投げかけていました。

自ら調べたことを相手が理解できるように伝え、相手が調べてきたことをしっかりと理解する。発言する際は相手の立場になって考えることを忘れない。その中で議論を進め、新たな課題を発見し、その課題を解決するためにはどうすればよいのかを全員で考える。このように、教科の知識ではなく、「他人と協力して何かを成し遂げる上で大切なことを学んでほしい」と考えていましたが、生徒たちはこちらの思いを超え、それ以上のものを得ることができたのではないかと、当日の成長した姿を見て感じました。

公開討論会後に行ったアンケートでは、「メンバーと意見を共有しながら深く議論できた」「他者の意見・発表に対して、質問・疑問を投げかけることで、自分で考える力がついた」「経済連携協定（EPA）という切り口から、世界全体の構造を把握する第一歩を踏み出すことができた」「あまり関心をもっていなかった経済連携協定（EPA）について深く知ることができ、それについて議論し、自分の意見を膨らませるといった経験ができた」「普段ニュースで見かける内容を掘り下げて調べることで、今までにない自分なりの発見ができた」などの意見がありました。

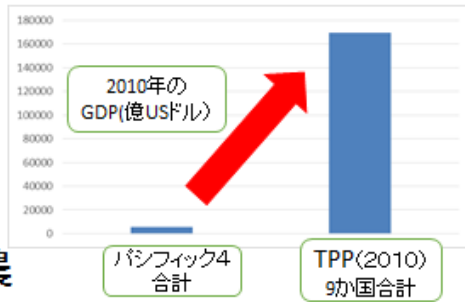
秋から調査やプレゼン作成、発表練習などを行い、全体を通して「非常に貴重な経験で参加してよかった」「もっと多くの生徒に参加してほしい」といった意見を参加した生徒全員から聞くことができました。

10月の第1回ミーティングから公開討論会当日まで大変有意義な時間となりました。この時間を1つのきっかけとして、生徒たちが新たな挑戦への一歩を踏み出してくれることを期待しています。



TPPの成り立ち

- 2006 パシフィック4発効
シンガポール 海運、金融
チリ 鉱業、農業酪農
ニュージーランド 酪農、畜産
ブルネイ エネルギー資源(石油他)



域内GDPが約30倍に

- 2010 アメリカ オーストラリアなど五か国が交渉参加
- 2012 カナダ メキシコが交渉参加
- 2013 日本が交渉参加



TPP (12か国) 合意

- 2015年10月5日 大筋合意
 - 域内GDP 世界の4割
 - 域内人口 世界の1割(8億人)
- 幅広い分野でのルール制定
 - ・投資の自由化
 - ・知的財産権
 - ・環境保護
 - ・サービスの自由
 - ・電子商取引
 - ・国有企業の規律 他



異なる文化圏との
多分野規定

21世紀型のルール

アメリカ離脱

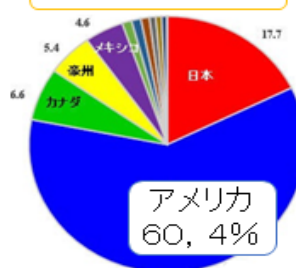
- 発効条件
TPP ~~---全参加国のGDPの85%を占め、かつ6カ国以上の承認~~
TPP11 ---6カ国以上の承認

TPP11を推進

* TPP11の凍結項目

- 医薬品データの保護期間
- 特許期間の延長措置 他

TPP(12か国)のGDP



TPP11各国のGDP

